

日本神経科学学会 2021 年度の活動報告

日本神経科学学会（渡部文子・東京慈恵会医科大学・awatabe@jikei.ac.jp）

Activity Report in 2021, The Japan Neuroscience Society

The Japan Neuroscience Society

(Ayako M. Watabe, Jikei University School of Medicine, awatabe@jikei.ac.jp)

日本神経科学学会は、脳神経系に関する研究の推進を目的に1991年に設立された団体であり、現在約6000名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会は、2021年度7月に神戸においてオンラインとオンサイトのハイブリッド形式として開催されました。COVID-19感染拡大が続く中、昨年度は完全オンラインでしたが、今年は初のハイブリッド形式の取り組みとして大きな一歩を進めました。このような状況への対応を含め本委員会の活動について報告致します。

1. ハイブリッド大会の特色と今後の課題

本学会における過去8年間の年次大会参加者の男女比を調べたところ、女性割合は2014年度の24%から毎年わずかず増加し、昨年度のweb開催では28%、さらに本年度のハイブリッド形式では31%となり、記録を取り始めてから初めて30%を超えました。また、年代別に見みると20代の若い世代の参加が男女とも急増したのが大きな特徴です。その中でも女性比率は20代では42%、30代では29%と過去最高であり、40代女性も昨年のweb開催と今年の2年続けて過去最高の25%以上という結果になりました。

原因等の詳細な分析については専門学会による報告を待ちますが、学生・若手研究者は、交通費等の不要なオンライン学会に積極的に参加したことを反映していると考えられます。また30代、40代女性比率についても今後の分析が必要ですが、この世代は職場でも中間管理職的立場にあり、家庭でも受験生や介護などを抱えたワークライ

フバランスの厳しい中、出張を伴う活動が困難な状況を反映するのかもしれませんが。女性研究者支援では未就学児を抱える比較的若手への支援が中心である一方、今後はこうした世代への対策も必要かと考えます。

2. 子育て中の研究者の活動支援

参加が増えている20代～30代女性が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性が今後も研究活動を継続するために重要であると考えられます。本学会では2004年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、子供と一緒に使える休憩室も設置しています。本年度はハイブリッド大会として開催されたことから、託児室利用者は事前予約2件、キャンセル1件で実際の利用者は1名と、例年に比べ極端に低い結果でしたが、直前に首都圏が緊急事態宣言下となったことが要因かと考えられます。今後、ポスター会場の一角における親子スペースの設置等を含め、このような取り組みを次年度以降も継続する予定です。

3. 大会におけるダイバーシティ委員会企画

日本神経科学学会ではダイバーシティ対応委員会主催の特別教育講演として、「研究と研究環境のGendered innovations～これまでとこれから」（講演者：隠岐さや香先生、名古屋大学大学院経済学研究科教授）を開催しました。講演はオンデマンド配信も行い、また現地では談話会における活発な意見交換を行いました。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も5年目に入り、委員のメンバーについても多様性を高めていきたいと考えております。